



森下あいさん（下長尾）

わたしは95歳です。今回の展示では花をかたどったきめこみを作って展示しました。きめこみとは、布を型紙に沿ってはさみで切り、わくにはめ込んでいくものです。みんなの名札を付けて作品を展示してくれるから、本当にうれしいし、わたしの励みになっているんですよ。今わたしが手がけている作品は、今回展示したものよりも一回り大きなもの。細工は細かいので手間もかかるし時間もかかります。これまで通り、こつこつとやっていきたいと思います。今の若い人たちは、途中で飽きてしまうかもしれませんね。ここはみんなが友達、仲良く取り組んでいます。



澤井ひささん（徳山）

わたしは91歳と半年になりました。生きがいの郷に通っているおかげで、今も毎日元気。かくしゃくとしたものです。今年は作品を4点展示しました。知り合いが「展示が終わったら家に飾りたいからゆずってね」って言うってくれるんですよ。そのたびに幸せを感じています。家に閉じこもっていたら何にもする気が起きなくなってしまう。生きがいの郷に通うと、友達と話をするのが楽しいし、作品を作るのも楽しい。無理せず、自然に頑張れるんです。できっこないと思っていたら何もできないんです。作品を作ることが、わたしの生きがいの一つになっています。

高齢者むつみの郷、高齢者生きがいの郷利用者が町民ギャラリーで展示作品を見学しました。

わたしら元気 毎日が生きがいなんよ。

巻末レポート



ベンチでちょっと一休み。和やかな談笑のひとつき。

生きがいを持って毎日を過ごすのが一番

高齢者むつみの郷、高齢者生きがいの郷では69歳から95歳の人たちが、日々の実習の中で、習字、塗り絵、ちぎり絵、きめこみ、押し絵、短歌、陶芸など、それぞれ自分に合った趣味を持

ち、毎日楽しみながら、こつこつと作品を作っています。どの人の作品も見事な出来栄え。とてもわたしたちでは、まねのできないものばかりです。

中には1人で3、4点作り上げる人もいますよ。このギャラリーに作品を展示・披露することが、みんなの励みにもなっているんです。今回の見学のように、お互いの作品を見比べることで、またさらに作る意欲もわいてきます。みんな元気ですよ、作品を通して伝えていきたいですね。

生きがいの郷職員の酒井敬子さんは、「作品は4月ごろから作り始めました。65歳以上の人たちが毎日こつこつと作っていました。中には白内障や緑内障を患った人もいますが、展示作品を見ると、とてもそうは思えない。出来栄えがとってもすてきなんです。頑張ってきた成果ですよ。町民の皆さんに『わたしたちは元気ですよ』と作品を通して伝えたい。皆さん、ぜひ見に来てください」と話していました。

「わたしは、みんなと一緒にいられて幸せだよ」と言う澤井ひささん。たくさん笑顔を見ていたら、素直に納得できました。人は誰でも必ず年を取ります。大事なものは、どのように年を重ねてゆくかです。笑顔で、生きがいを持って、幸せを感じながら年を重ねてゆける。そんな環境が、この町にはあります。

誰もが笑顔で年齢を重ねてゆくということ
ギャラリー展示作品を見学
高齢者むつみの郷、高齢者生きがいの郷では10月上旬、施設利用者の皆さんが半年がかりで作った作品を町民ギャラリー（本庁舎横・上長尾）に展示しました。一つ一つの作品には職員の手で名札が付けられ、一目で誰の作品なのか分かるよう配慮されています。

10月5日、利用者の皆さん20人が町民ギャラリーを訪れ、作品の見学会を実施しました。みんな自分の作品を見たり、友人の作品を見たりと忙しそう。習字、短歌、ちぎり絵、刺しゅう、押し絵、きめこみ、陶芸……。どれも、手間暇かけた、世界に一つだけのもの。それぞれ作者の思いが込められた作品たちです。



作品の見事な出来栄えにみんな感心しきり。